
小城市協働によるまちづくり推進事業 市民アンケート調査

【 報告書概要版 】

平成27年3月
佐賀県 小城市

～ 目 次 ～

I 調査計画	1
II 回答者の属性	3
III 調査結果	7
【1】市民活動・地域活動について	7
1. 地域についての関心（問7）	7
2. 市民活動等への参加状況	8
(1) 参加経験（問8）	8
(2) 参加団体（問9）	9
(3) 参加して良かった点（問10）	11
(4) 負担を感じた点（問11）	13
(5) 参加していない理由（問12）	15
3. 地域活動評価（問13）	17
4. 地域活動を活発にするため必要と思うこと（問14）	18
【2】協働の進め方について	20
1. より良いまちづくりを進めるため重要と思うこと（問15）	20
2. より良いまちづくりを進めるため市民ができること（問16）	22

I 調査計画

【調査目的】

市民のまちづくりに関する意識や地域活動への参加状況を把握し、今後の「協働によるまちづくり」の推進に向けた基礎資料とすることを目的として実施した。

【調査対象】

19歳以上の市民（住民基本台帳による無作為抽出）

【調査方法】

郵送配布、郵送回収

【調査時期】

平成27年（2015年）1月～2月

【回収結果】

発送数 ----- 2,000人

有効回収数 ----- 761人

有効回収率 ----- 38.1%

◆居住地区別回収状況（上段：件数、下段：構成比％）◆

（問4回答結果）

合計	小城地区					三日月地区
	小城町 桜岡校区	小城町 岩松校区	小城町 晴田校区	小城町 三里校区		
761	300	111	50	114	25	191
100.0	39.5	14.6	6.6	15.0	3.3	25.1

牛津地区			芦刈地区	無回答
牛津町 牛津校区	牛津町 砥川校区			
300	129	40	88	13
39.5	17.0	5.3	11.6	1.7

【報告書の見方について】

1. 集計は小数点以下第2位を四捨五入している。従って回答比率の合計は必ずしも100%にならない場合がある。
2. 2つ以上の回答が可能な複数回答質問の場合、その回答比率の合計は100%を超える場合がある。
3. 数表、図表、文中に示すNは、比率算出上の基数（標本数）である。全標本数を示す「全体」を「N」、該当数^{*}を「n」で表記している。
4. 図表中における年齢別などのクロス集計結果については、該当する属性等の設問に対する無回答者（例えば、年齢別でクロス集計する場合における年齢の無回答者）を除いて表記しているため、属性ごとの基数の合計と全体の基数は同じにならない場合がある。
5. 図表中においては見やすさを考慮し、回答割合が極端に少ない数値（例：0.0%、0.1%など）は、図と干渉して見えにくい場合などに省略している場合がある。また、複数回答の図表中においては、見やすさを考慮し、回答割合の高い順に並べ替えて表記している場合がある。
6. この他、個別に参照事項がある場合は、本報告書の該当箇所に適宜記載した。
7. なお、本報告書では、市民活動、地域活動、行政区、協働について、以下のように位置付けている。

市民活動・・・営利を目的としない市民の自主的・主体的に行う公益活動。具体的にはボランティア団体やNPO（非営利組織）の行う活動。

地域活動・・・市民活動のうち、地域の自治会活動やサークル活動、地域の美化、防犯などのボランティア活動などを個人あるいは団体で実施、参加する活動。

行政区・・・ひとつの市町村を任意の区画で分割して設置される実務上の行政区画において設けられる住民自治組織を指す（例：北小路、大寺、天満町、牛王等）。

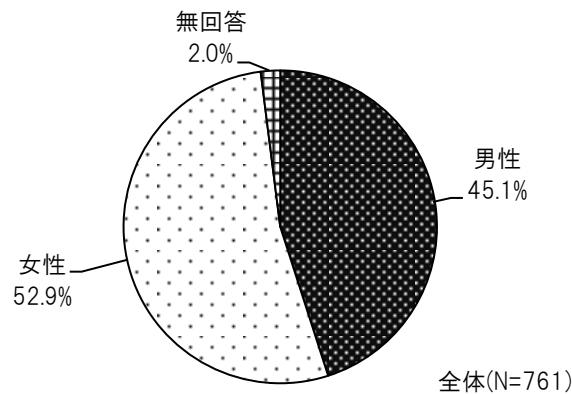
協働・・・立場や手法が違う組織同士が「共通の目的（解決したい課題）」のためにそれぞれが持つ特質（情報や手法や人的資源等）を持ち寄り、「対等の立場」で「協力して働く」こと。

※（例）問Aで1と回答した人のみが、問Bを答える場合の問Bの基数、あるいはクロス集計における各属性（「男性」や「30歳代」・・・）など、限定された回答者数

Ⅱ 回答者の属性

1. 性別構成比（問1）

対象者の性別構成比は、男性が 45.1%、女性が 52.9%と、やや女性の割合が高い構成となっている。

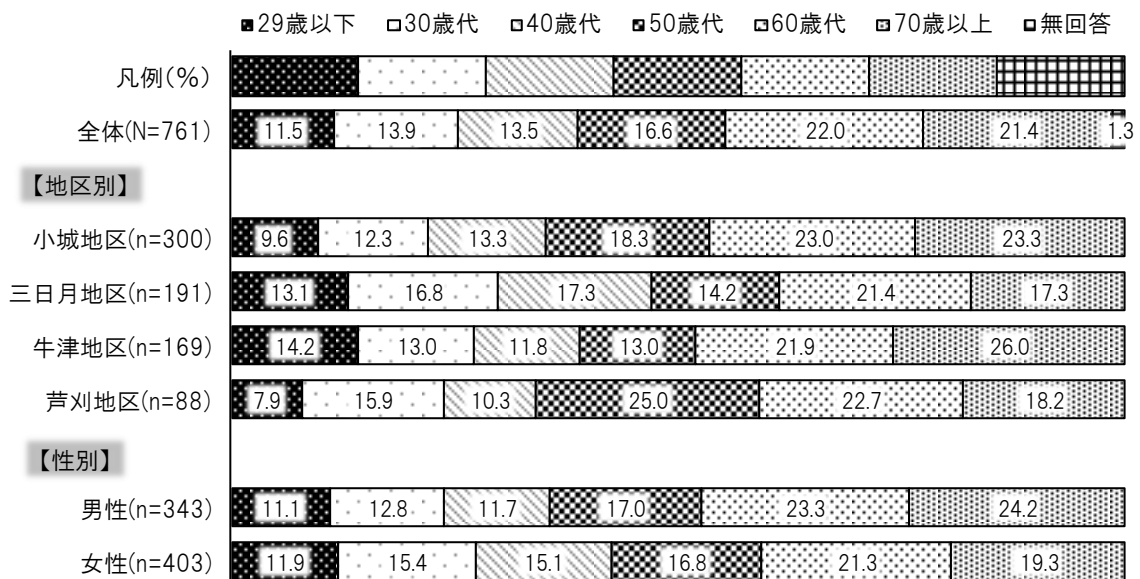


2. 年齢別構成比（問2）

対象者の年齢別構成比は、「60歳代」の割合が 22.0%と最も高く、ほぼ並んで「70歳以上」が 21.4%で続き、次いで「50歳代」(16.6%)の順となっている。これらを合計した『50歳以上』で、全体の6割(60.0%)を占めている。

地区別でみると、特に、三日月地区では他の地区に比べ若い年齢層の割合が高く、小城地区や芦刈地区では『50歳以上(合計)』の割合が高くなっている。

性別でみると、男性は女性に比べ『50歳以上(合計)』の割合が高くなっている。

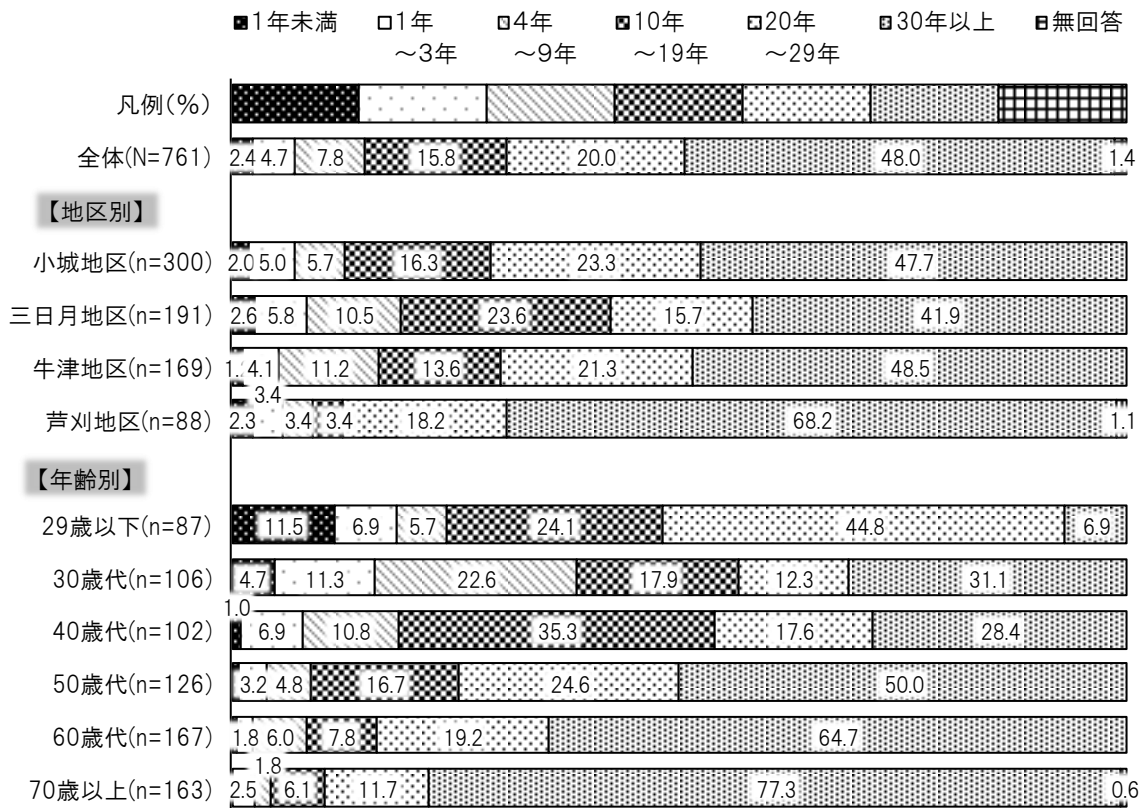


3. 居住年数（問3）

対象者の小城市での居住年数は、全体では「30年以上」の割合が48.0%と半数近くを占め最も高く、次いで「20～29年」（20.0%）、「10～19年」（15.8%）の順となっている。

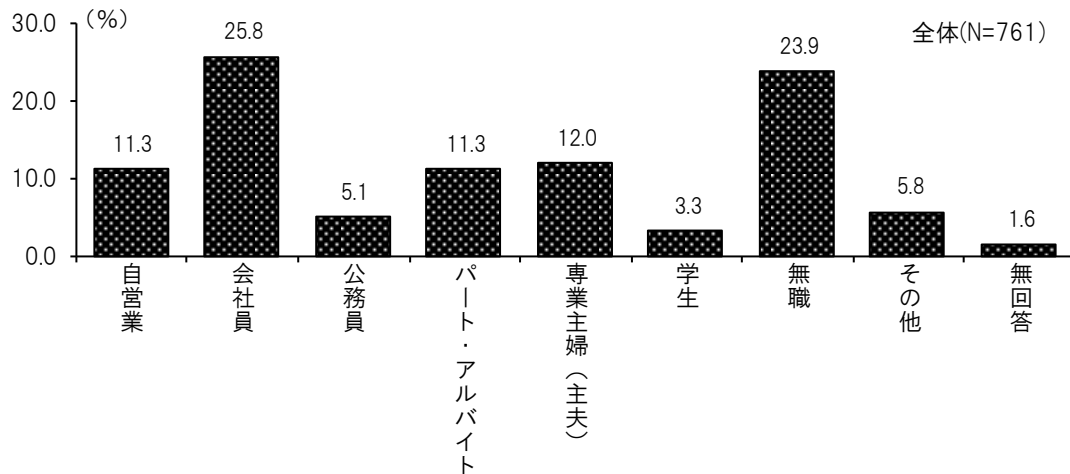
地区別では、特に、芦刈地区で「30年以上」が7割近くを占め、他の地区を大きく上回っている。また、三日月地区では他の地区に比べ『19年以下（合計）』の割合が高い点で地域差がみられる。

年齢別では、年齢が上がるほど居住年数も比例して長くなる傾向にある。

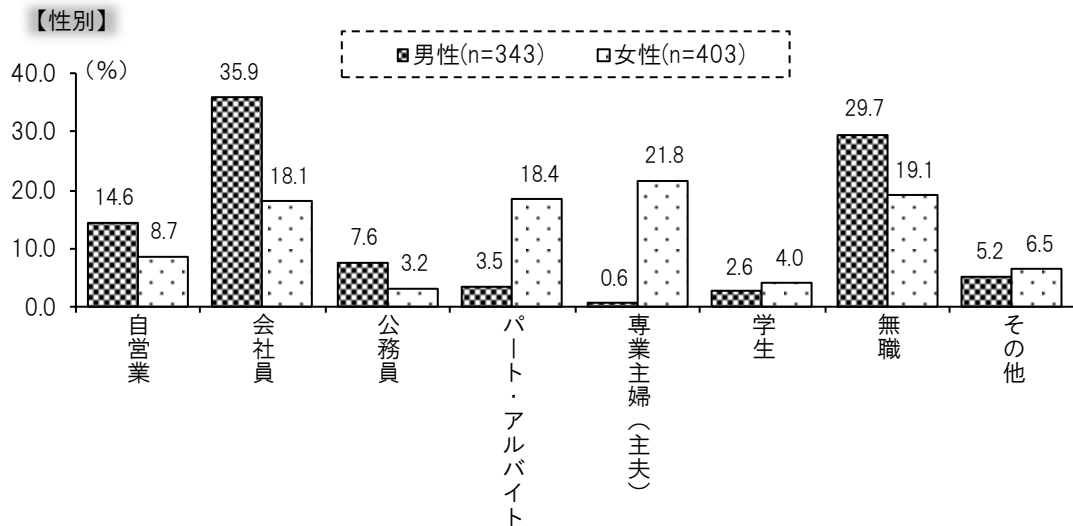


4. 職業別構成比（問5）

対象者の職業別構成比は、「会社員」の割合が25.8%と最も高く、ほぼ並んで「無職」が23.9%で続いている。以下、「専業主婦（主夫）」（12.0%）、「自営業」「パート・アルバイト」（各11.3%）の順となっている。



性別でみると、男性は女性に比べ「会社員」や「無職」の割合が高く、女性は「パート・アルバイト」や「専業主婦（主夫）」の割合が男性を大きく上回っており、差がみられる。

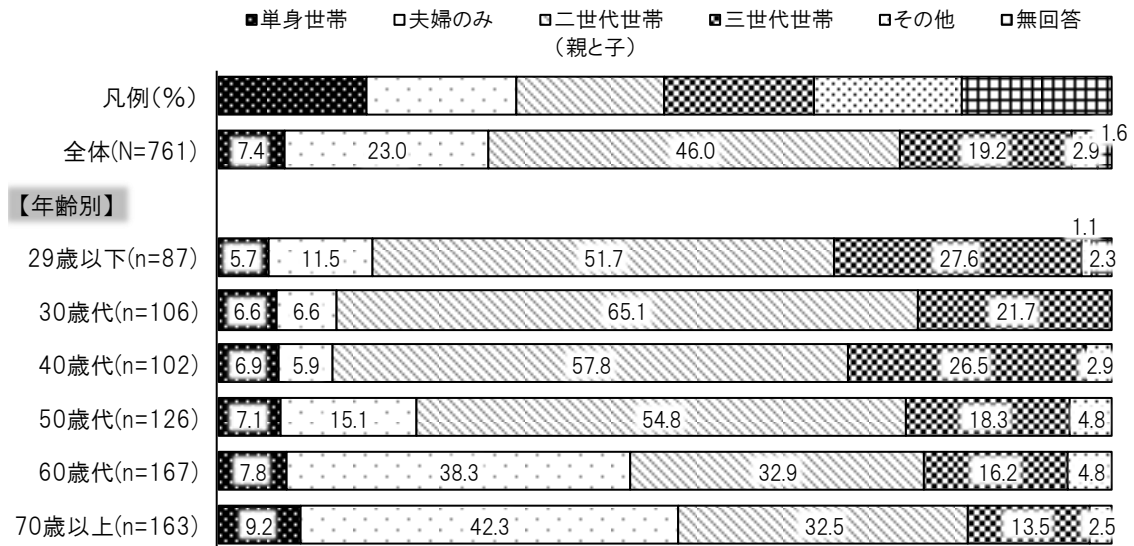


注：性別の図では「無回答」を省略している。

5. 家族構成（問6）

家族構成をみると、全体では「二世世代世帯（親と子）」の割合が46.0%と最も高く、次いで「夫婦のみ」（23.0%）、「三世世代世帯」（19.2%）の順となっている。

年齢別では、特に、60歳以上において「夫婦のみ」の割合が高く、年齢が上がるほど「単身世帯」の割合も増える傾向にある。



Ⅲ 調査結果

【1】市民活動・地域活動について

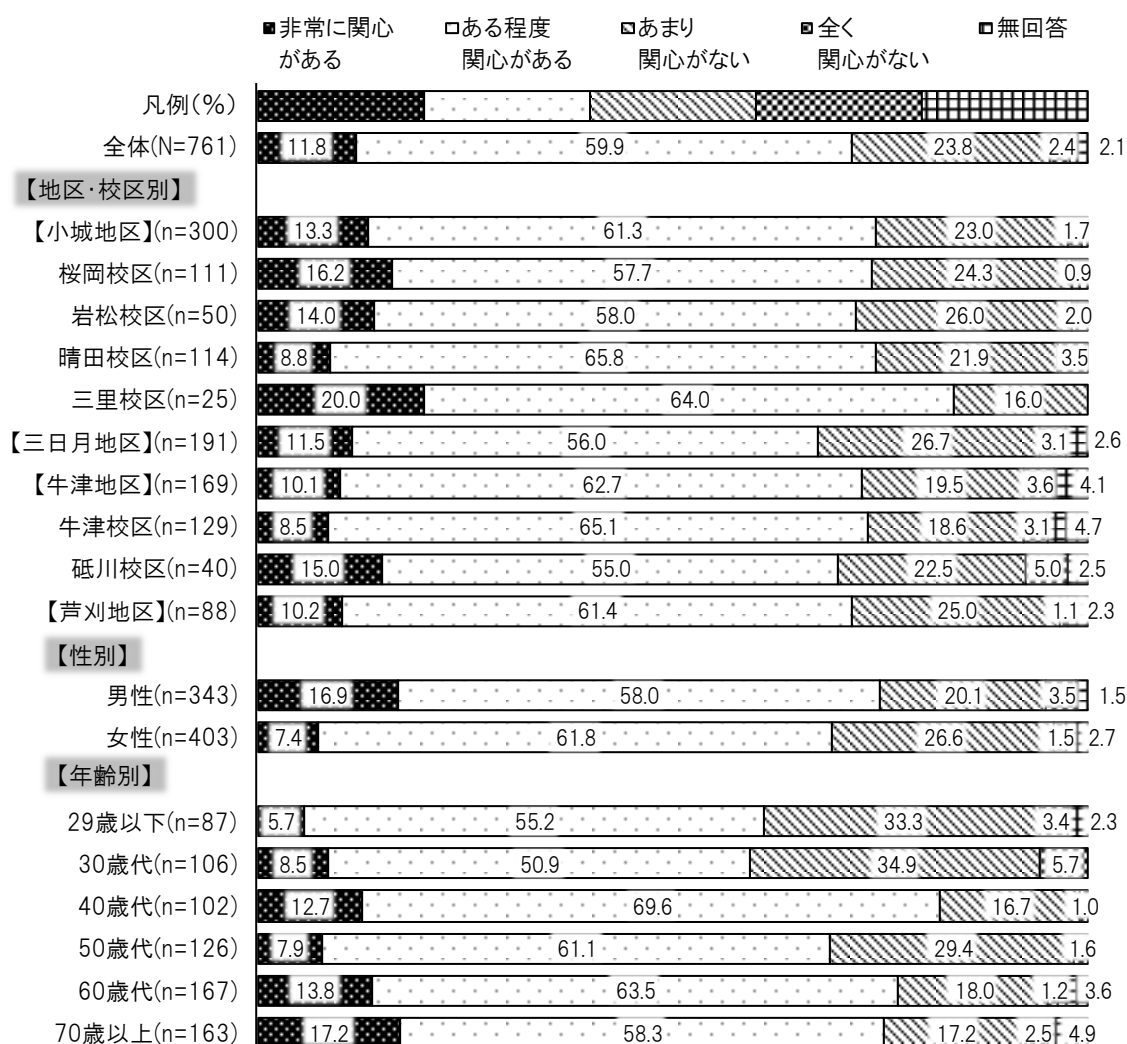
1. 地域についての関心（問7）

問7. あなたは、地域のことに関心がありますか。
 ※ここでいう地域とは、「行政区」です。（○は1つ）

地域についての関心は、「非常に関心がある」の割合が11.8%、「ある程度関心がある」が59.9%で、合計で約7割（71.7%）が関心を示している。一方、「あまり関心がない」と「全く関心がない」を合計した『関心がない』割合は26.2%と、およそ4人に1人の割合となっている。

地区・校區別では、特に小城地区の三里校区で「非常に関心がある」が他の地区を大きく上回っている。

性別では男性、年齢別ではおおむね年齢が上がるほど「非常に関心がある」も増える傾向にある。一方、29歳以下や30歳代では『関心がない（合計）』が他の年齢層を上回っている。



2. 市民活動等への参加状況

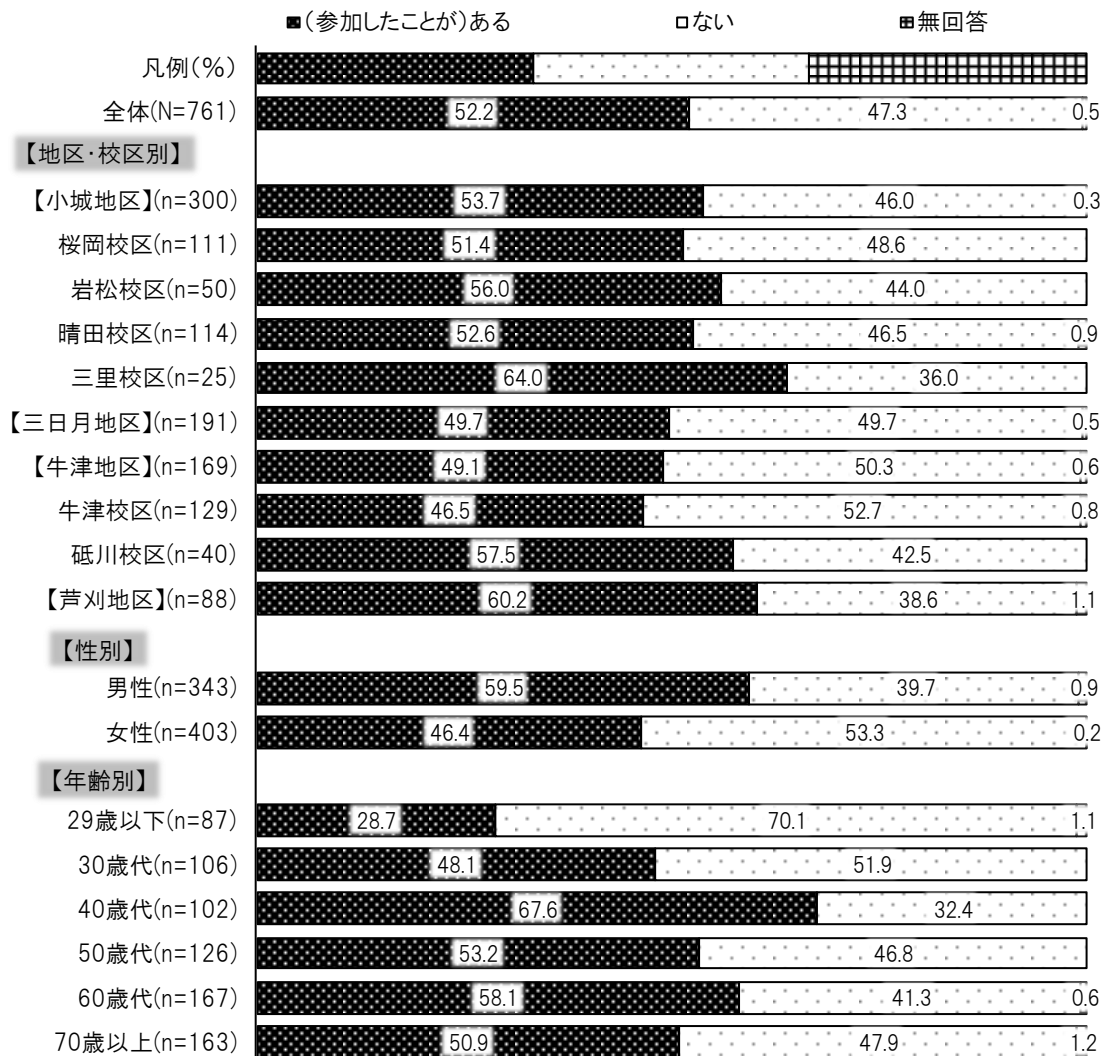
(1) 参加経験 (問8)

問8. あなたは過去一年間で、市民活動や地域活動などの活動に参加したことがありますか。(○は1つ)

市民活動等への参加経験は、「(参加したことが) ある」割合(参加率)が52.2%と半数を占めている。

地区・校区别では、参加率は、特に小城地区の三里校区や牛津地区の砥川校区、芦刈地区などで比較的高くなっている。

また、性別では男性で高く、年齢別では40歳代で最も高くなっている。一方、29歳以下の参加率は3割未満で、他の年齢層を大きく下回っている。



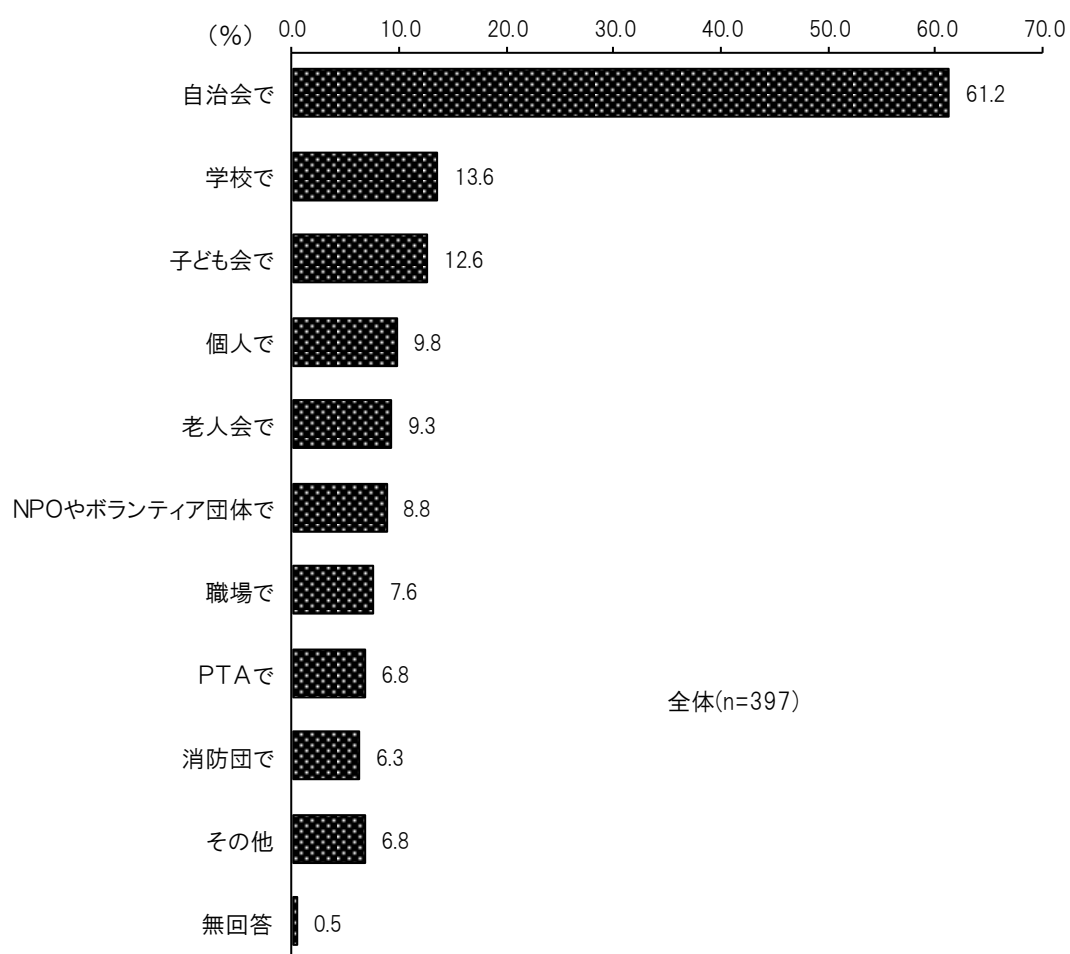
(2) 参加団体（問9）

【問8で「ある」と答えた方におたずねします】

問9. あなたは過去一年間で、どのような活動団体の活動に参加しましたか。

（あてはまるものすべてに○）

過去一年間で、参加したことがある活動団体は「自治会で」の割合が61.2%と最も高く突出している。次いで「学校で」（13.6%）、「子ども会で」（12.6%）などの順となっている。



地区別でみると、特に、小城地区や三日月地区では他の地区に比べ「自治会で」の割合が高く、牛津地区では「子ども会で」「老人会で」などが高くなっている。

性別では、男性の場合「自治会で」「消防団で」などが高く、女性は「学校で」「子ども会で」などで男性を上回っている。

年齢別では、年齢が若い層ほど「消防団で」の割合が高く、30～40歳代では「学校で」「子ども会で」「PTAで」、50～60歳代では「自治会で」、70歳以上では「個人で」「老人会で」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

		自治会で	学校で	子ども会で	個人で	老人会で	NPOやボランティア団体で	職場で	PTAで	消防団で	その他
全体(n=397)		61.2	13.6	12.6	9.8	9.3	8.8	7.6	6.8	6.3	6.8
地区別	小城地区(n=161)	62.1	16.8	11.8	10.6	6.8	8.1	8.7	6.2	8.1	6.8
	三日月地区(n=95)	69.5	14.7	13.7	10.5	9.5	8.4	8.4	7.4	5.3	3.2
	牛津地区(n=83)	51.8	8.4	15.7	12.0	12.0	9.6	4.8	9.6	4.8	10.8
	芦刈地区(n=53)	56.6	11.3	9.4	3.8	11.3	9.4	5.7	3.8	5.7	7.5
性別	男性(n=204)	70.6	11.8	8.8	7.8	10.8	5.9	7.8	5.4	12.3	3.4
	女性(n=187)	50.8	16.0	17.1	11.8	7.5	11.8	7.0	8.6	0.0	10.7
年齢別	29歳以下(n=25)	44.0	28.0	4.0	8.0	4.0	8.0	4.0	0.0	20.0	4.0
	30歳代(n=51)	51.0	29.4	43.1	2.0	0.0	7.8	11.8	19.6	19.6	2.0
	40歳代(n=69)	52.2	31.9	27.5	7.2	0.0	7.2	7.2	21.7	10.1	4.3
	50歳代(n=67)	82.1	4.5	3.0	6.0	0.0	4.5	13.4	0.0	3.0	6.0
	60歳代(n=97)	76.3	3.1	1.0	9.3	5.2	9.3	6.2	0.0	1.0	11.3
	70歳以上(n=83)	44.6	4.8	6.0	21.7	36.1	13.3	2.4	2.4	0.0	8.4

注1：表中数値の単位は%(パーセント)。

注2：表中の「網掛け」は、各クロス集計(性別・年齢別など)において最も高い割合を示している。(例／性別の場合、男性と女性を比べて高い方に、年齢別の場合、29歳以下から70歳以上のうち、最も割合が高い年齢層に網掛け。)

但し、回答割合が10%未満の項目、n数が10未満の項目、及び「その他」については網掛けしていない。また「無回答」は表記から省略している。

(本報告書においては以下同様)

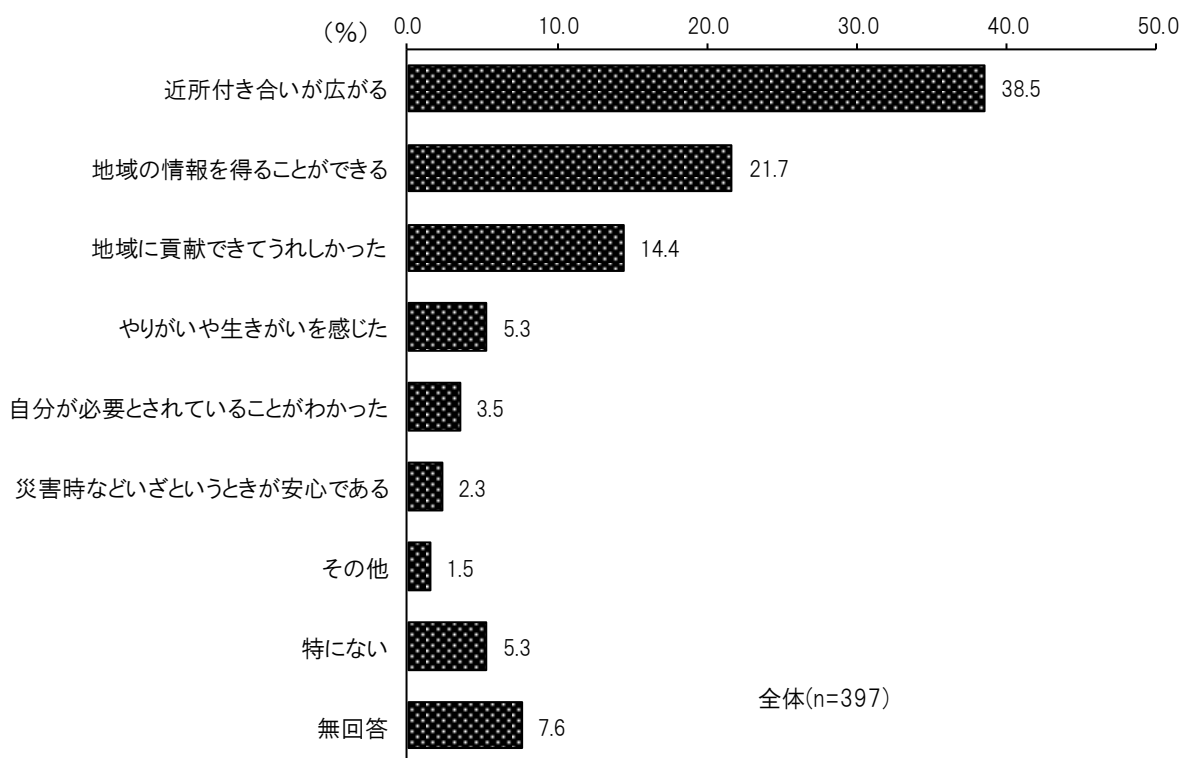
(3) 参加して良かった点 (問 10)

【問 8 で「ある」と答えた方におたずねします】

問 10. 活動に参加して良かった点はどのようなことですか。(○は1つ)

活動に参加して良かった点としては、「近所付き合いが広がる」の割合が4割近く(38.5%)と最も高く、次いで「地域の情報を得ることができる」(21.7%)、「地域に貢献できてうれしかった」(14.4%)の順となっている。

「特にない」が5.3%であることから、大半の参加者が、何らかの好意的な評価をしているとみられる。



地区別でみると、特に、芦刈地区で「地域の実情を得ることができる」や「やりがいや生きがいを感じた」が他の地域を上回っているのが目立っている。

性別では、男性で「地域に貢献できてうれしかった」が、やや女性を上回るが、大きな差は目立たない。

年齢別では、29歳以下で「地域に貢献できてうれしかった」「やりがいや生きがいを感じた」の割合が高く、また、30歳代では「近所付き合いが広がる」、60歳以上では「地域の実情を得ることができる」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

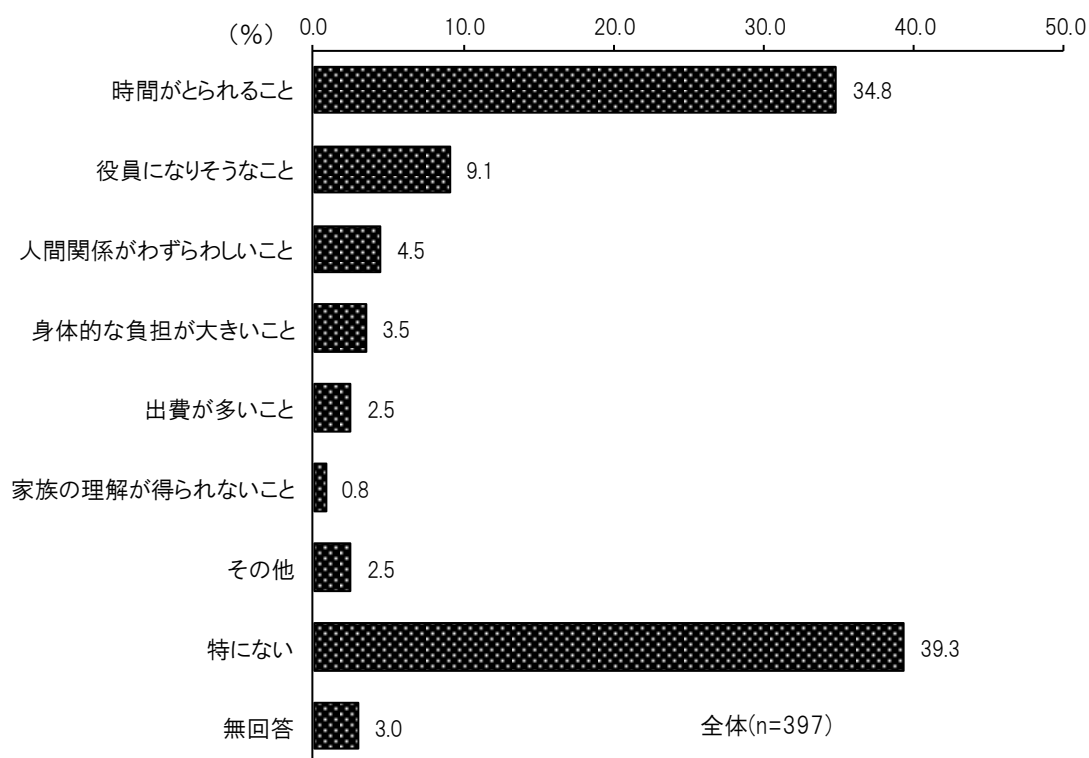
		近所 が 付 き 合 い が	地 域 の 情 報 を 得 る	地 域 に 貢 献 で き て	や り が い や 生 き が い	自 分 が 必 要 と さ れ た	災 害 時 な ど い ざ と い	そ の 他	特 に な い
	全体(n=397)	38.5	21.7	14.4	5.3	3.5	2.3	1.5	5.3
地区別	小城地区(n=161)	40.4	19.9	16.1	4.3	3.7	2.5	3.1	3.1
	三日月地区(n=95)	41.1	17.9	12.6	4.2	3.2	4.2	0.0	6.3
	牛津地区(n=83)	38.6	25.3	10.8	4.8	4.8	1.2	0.0	6.0
	芦刈地区(n=53)	30.2	30.2	13.2	11.3	1.9	0.0	1.9	9.4
性別	男性(n=204)	38.7	23.0	16.7	2.0	3.9	3.9	1.0	4.9
	女性(n=187)	39.0	20.9	10.7	9.1	3.2	0.5	2.1	5.3
年齢別	29歳以下(n=25)	20.0	20.0	20.0	16.0	0.0	8.0	0.0	12.0
	30歳代(n=51)	60.8	7.8	9.8	2.0	0.0	0.0	5.9	5.9
	40歳代(n=69)	44.9	18.8	8.7	1.4	7.2	1.4	1.4	7.2
	50歳代(n=67)	52.2	19.4	11.9	4.5	0.0	3.0	0.0	4.5
	60歳代(n=97)	27.8	29.9	19.6	3.1	4.1	2.1	1.0	4.1
	70歳以上(n=83)	27.7	26.5	13.3	10.8	6.0	2.4	1.2	3.6

(4) 負担を感じた点 (問 11)

【問 8 で「ある」と答えた方におたずねします】

問 11. 活動に参加して一番負担に感じた点はどのようなことですか。(○は 1 つ)

活動に参加して負担を感じた点については、「特にない」が約 4 割 (39.3%) を占めていることから、およそ 6 割程度が、何らかの負担を感じているとみられる。負担を感じた点としては、「時間がとられること」の割合が 34.8% と最も高くなっている。次いで「役員になりそうなこと」(9.1%)、「人間関係がわずらわしいこと」(4.5%) などが続くが、いずれも少数派である。



地区別でみると、特に、牛津地区で「時間がとられること」が他の地区を上回っている。

性別では、女性で「時間がとられること」が、やや男性を上回るが、大きな差は目立たない。

年齢別では、29歳以下で「特にない」の割合が高く、また、30歳代では「時間がとられること」、40～50歳代では「役員になりそうなこと」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

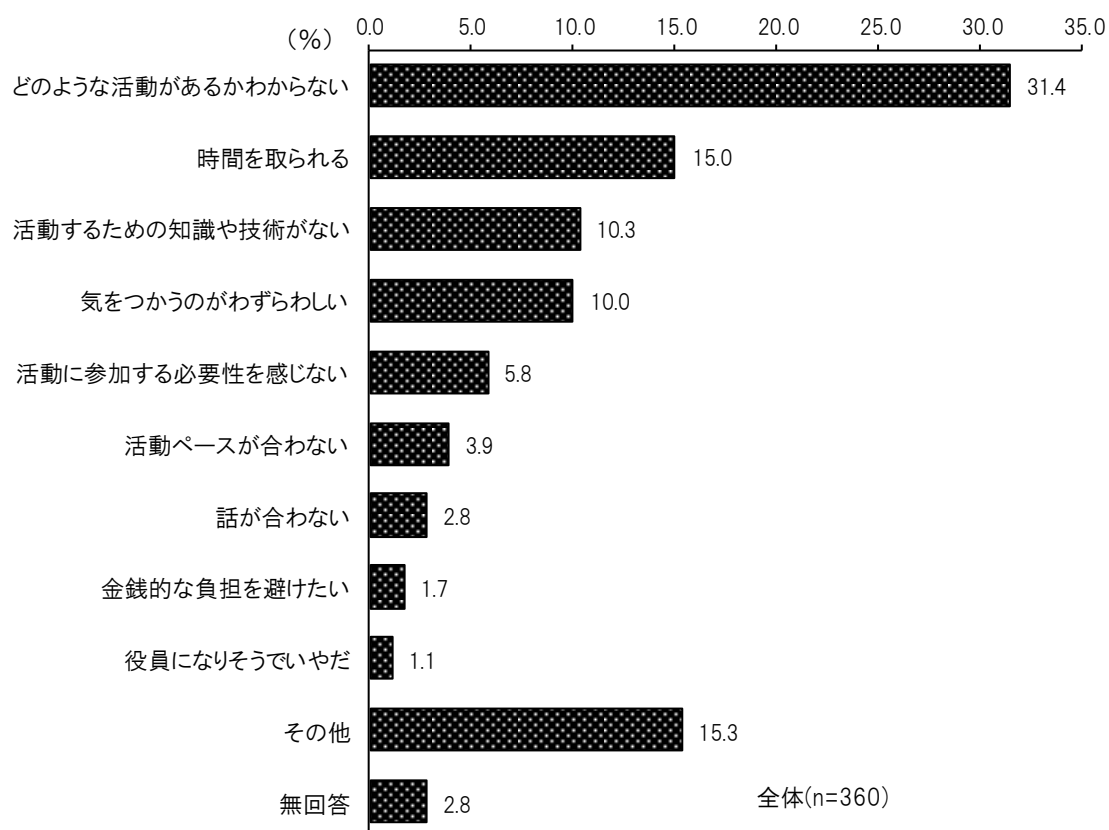
		時間がとられること	役員になりそうなこと	人間関係がわずらわしいこと	身体的な負担が大きいこと	出費が多いこと	家族の理解が得られないこと	その他	特にない
全体(n=397)		34.8	9.1	4.5	3.5	2.5	0.8	2.5	39.3
地区別	小城地区(n=161)	30.4	9.9	4.3	3.7	3.7	1.2	2.5	40.4
	三日月地区(n=95)	35.8	9.5	5.3	4.2	2.1	1.1	1.1	36.8
	牛津地区(n=83)	41.0	8.4	4.8	3.6	1.2	0.0	3.6	34.9
	芦刈地区(n=53)	37.7	7.5	3.8	1.9	1.9	0.0	3.8	43.4
性別	男性(n=204)	31.9	11.3	6.4	4.4	2.5	0.5	2.0	38.7
	女性(n=187)	38.5	6.4	2.7	2.7	2.7	1.1	3.2	39.0
年齢別	29歳以下(n=25)	32.0	0.0	0.0	0.0	4.0	0.0	4.0	52.0
	30歳代(n=51)	60.8	3.9	3.9	0.0	2.0	0.0	5.9	21.6
	40歳代(n=69)	44.9	15.9	0.0	1.4	1.4	2.9	2.9	27.5
	50歳代(n=67)	44.8	10.4	3.0	4.5	0.0	0.0	3.0	32.8
	60歳代(n=97)	27.8	8.2	6.2	5.2	2.1	0.0	1.0	47.4
	70歳以上(n=83)	12.0	9.6	9.6	6.0	6.0	1.2	1.2	49.4

(5) 参加していない理由 (問 12)

【問 8 で「ない」と答えた方におたずねします】

問 12. 活動に参加されていない理由はどのようなものですか。(○は 1 つ)

活動に参加していない理由については、「どのような活動があるかわからない」の割合が 31.4%と最も高く、次いで「時間を取られる」(15.0%)、「活動するための知識や技術がない」(10.3%)、「気をつかうのがわずらわしい」(10.0%)の順となっている。



なお、「その他」への回答が 1 割以上みられるが、主な回答は以下の通りである。

◆「その他」の主な回答(抜粋)◆

- ・案内がなかった。
- ・忙しいから。
- ・親の介護で時間が取れない。
- ・活動の日時が合わない。
- ・子どもが小さいので行けない。
- ・時間がない。
- ・仕事と介護で何もできない。
- ・仕事が忙しくて時間が取れない。
- ・仕事で疲れているから。
- ・仕事で休みが取れない。
- ・身体的に無理。
- ・体力的に無理。
- ・知的障害のため。
- ・妊娠中のため。
- ・引っ越してきて間もない。
- ・病気だから。

地区別でみると、小城地区や三日月地区で「時間を取られる」、三日月地区で「どのような活動があるかわからない」「気をつかうのがわずらわしい」などが、それぞれ他の地区を上回っている。

性別では、女性で「どのような活動があるかわからない」が、やや男性を上回るが、大きな差は目立たない。

年齢別では、29歳以下で「時間を取られる」、29歳以下や30歳代の若い年齢層で「どのような活動があるかわからない」、70歳以上で「活動するための知識や技術がない」「気をつかうのがわずらわしい」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

	かどの わから ない活 動があ る	時 間を 取ら れる	技 術が ない ため の知 識や	活 動す るた めの 知 識や	わ し い 気 をつ かう のが わず ら	活 動に 参加 する 必要 性	活 動ベ ース が合 わな い	話 が合 わな い	金 銭的 な負 担を 避け た	役 員に なり そう でい や	そ の 他
全体(n=360)	31.4	15.0	10.3	10.0	5.8	3.9	2.8	1.7	1.1	15.3	
地区別	小城地区(n=138)	27.5	18.1	11.6	9.4	4.3	3.6	3.6	0.7	1.4	16.7
	三日月地区(n=95)	34.7	17.9	7.4	13.7	4.2	5.3	1.1	2.1	1.1	11.6
	牛津地区(n=85)	32.9	9.4	11.8	9.4	8.2	3.5	3.5	2.4	0.0	15.3
	芦刈地区(n=34)	29.4	5.9	11.8	5.9	5.9	2.9	2.9	2.9	2.9	23.5
性別	男性(n=136)	27.9	18.4	9.6	11.8	5.1	4.4	2.9	1.5	2.2	14.7
	女性(n=215)	34.0	13.0	10.2	9.3	5.1	3.7	2.3	1.9	0.5	16.3
年齢別	29歳以下(n=61)	45.9	23.0	3.3	4.9	0.0	6.6	1.6	0.0	0.0	14.8
	30歳代(n=55)	41.8	10.9	5.5	7.3	9.1	0.0	1.8	1.8	3.6	16.4
	40歳代(n=33)	24.2	15.2	9.1	6.1	9.1	9.1	0.0	6.1	0.0	21.2
	50歳代(n=59)	35.6	11.9	3.4	15.3	1.7	10.2	1.7	0.0	3.4	15.3
	60歳代(n=69)	33.3	15.9	15.9	8.7	5.8	1.4	5.8	1.4	0.0	10.1
	70歳以上(n=78)	10.3	12.8	20.5	15.4	7.7	0.0	3.8	2.6	0.0	17.9

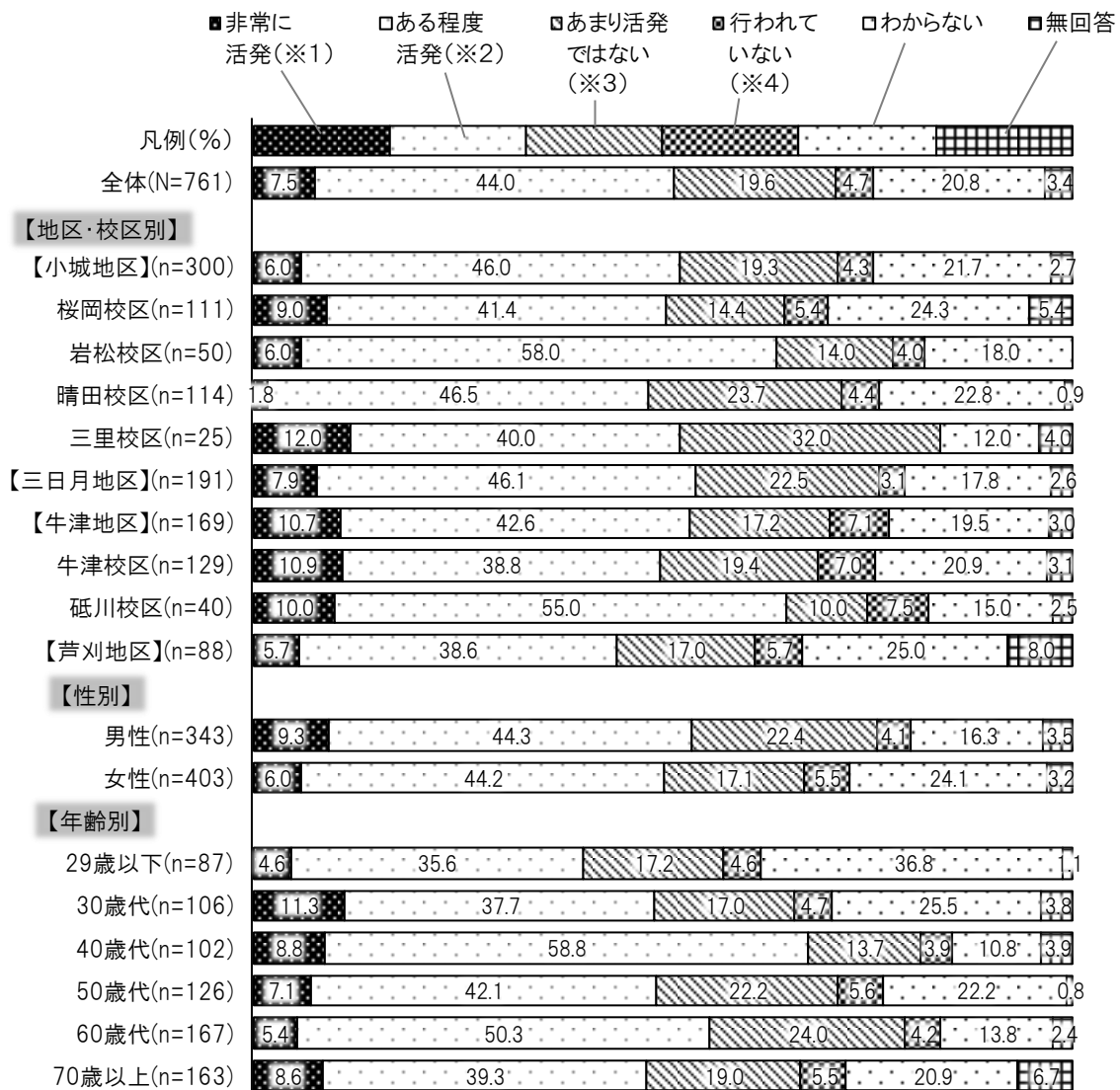
3. 地域活動評価（問 13）

問 13. あなたが住んでいる行政区では、地域活動は活発だと思いますか。
（○は1つ）

居住する行政区における地域活動の活発さについては、「非常に活発」(7.5%)と「ある程度活発」(44.0%)を合計して過半数(51.5%)が『活発』と評価している。

地区・校区別では、特に小城地区の岩松校区や砥川校区で『活発(合計)』が6割以上を占め他の地区を大きく上回っている。また、三里校区では「非常に活発」の割合が高くなっている。

性別では男性、年齢別では40歳代で『活発(合計)』の割合が他の層を上回るが、29歳以下では3人に1人以上が「わからない」と回答している。

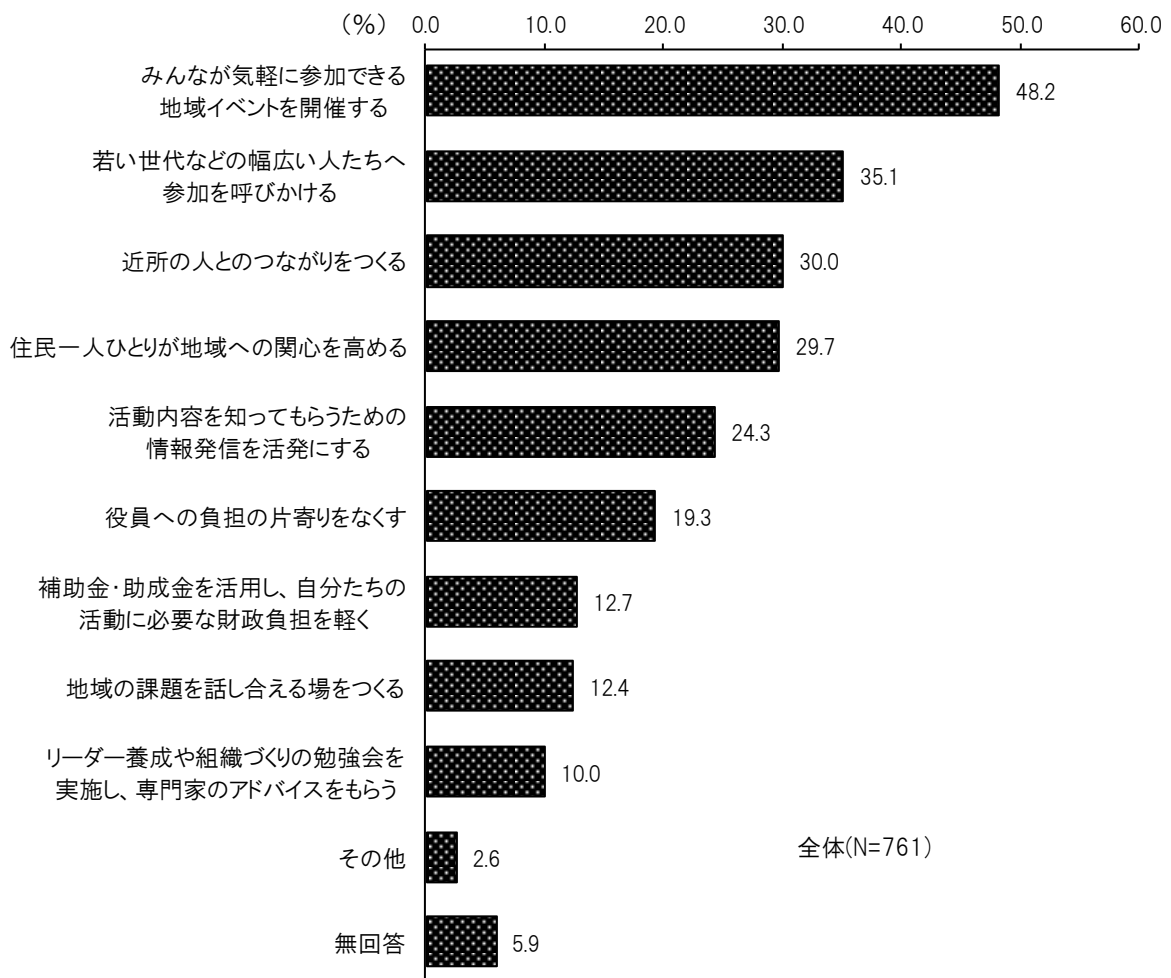


※1 非常に活発に行われていると思う
 ※2 ある程度活発に行われていると思う
 ※3 あまり活発に行われていないと思う
 ※4 ほとんど行われていないと思う

4. 地域活動を活発にするため必要と思うこと（問14）

問14. 地域活動をより活発にするには、主に何が必要だと思いますか。
（〇は3つ以内）

地域活動を活発にするため必要と思うことについては、「みんなが気軽に参加できる地域イベントを開催する」の割合が48.2%と最も高く、次いで「若い世代などの幅広い人たちへ参加を呼びかける」（35.1%）が続いている。以下、「近所の人とのつながりをつくる」（30.0%）、「住民一人ひとりが地域への関心を高める」（29.7%）、「活動内容を知ってもらうための情報発信を活発にする」（24.3%）の順となっている。



地区別では大きな差は目立たないが、性別では、男性で「若い世代などの幅広い人たちへ参加を呼びかける」「地域の課題を話し合える場をつくる」などが女性を上回っている。

年齢別では、29歳以下で「若い世代などの幅広い人たちへ参加を呼びかける」「活動内容を知ってもらうための情報発信を活発にする」、40歳代で「役員への負担の片寄りをなくす」、70歳以上で「近所の人とのつながりをつくる」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

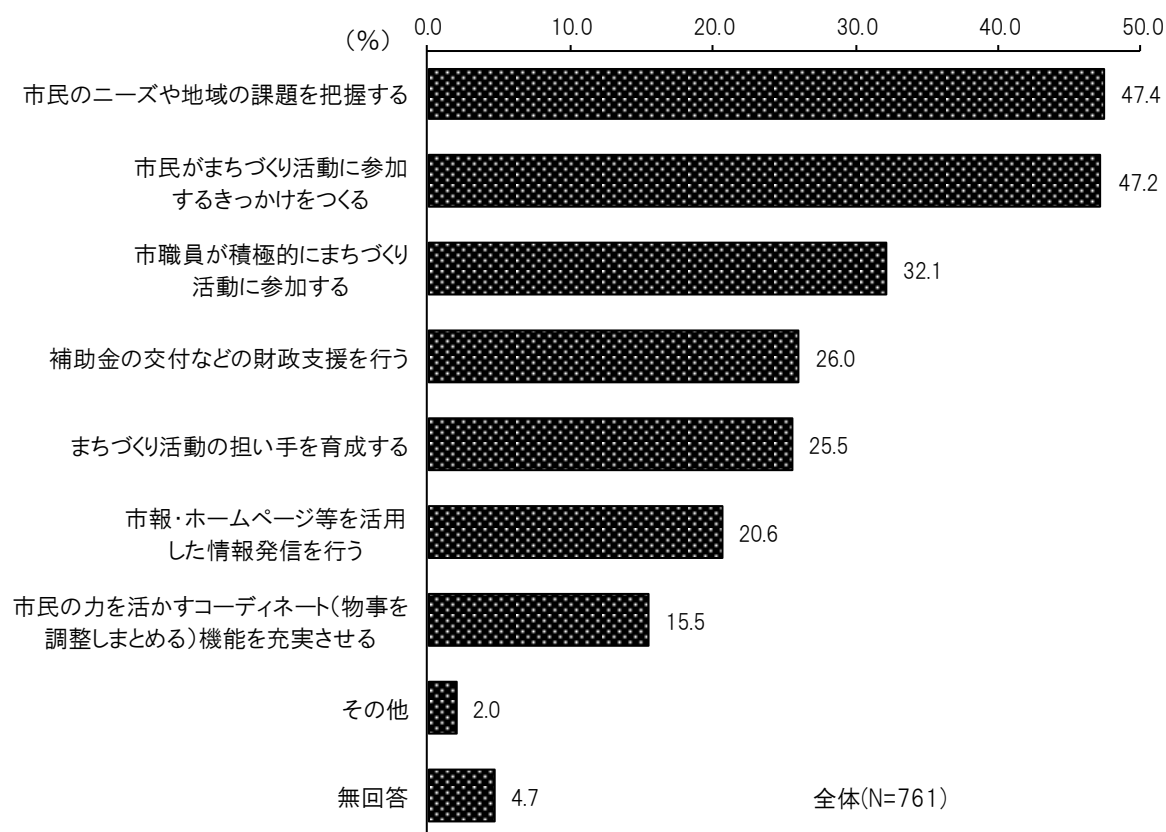
	るるみ 地んな がイガ ベん トを を参 開催 でき す	た若 ちい へ世 代な どを 呼び かけ る人	つ近 所の 人との つな がり を	の住 関民 心を 高め るが 地域 へ	す活 動内 容を 知っ てら う	なく 役員 への 負担 の片 寄りを	要し 補助 金・ 助成 金の 活用 に必 ず	場地 域の 課題 を話 し合 える	門家の アド バイ ス	りリー ダ― の勉 強を 実 施し 、専 門	その他
全体(N=761)	48.2	35.1	30.0	29.7	24.3	19.3	12.7	12.4	10.0	2.6	
地区別	小城地区(n=300)	46.7	33.3	31.3	32.3	24.7	19.0	13.7	13.3	10.3	2.3
	三日月地区(n=191)	51.3	35.1	31.9	25.7	23.6	22.0	15.2	9.9	7.9	3.7
	牛津地区(n=169)	49.1	35.5	33.1	29.6	26.0	16.6	10.7	13.0	10.1	3.0
	芦刈地区(n=88)	47.7	37.5	15.9	30.7	20.5	21.6	8.0	13.6	13.6	1.1
性別	男性(n=343)	46.4	40.5	32.4	29.2	20.4	19.2	13.4	17.8	11.7	2.0
	女性(n=403)	50.6	30.0	28.3	30.5	27.5	19.9	12.2	7.9	8.7	3.0
年齢別	29歳以下(n=87)	52.9	44.8	25.3	24.1	36.8	12.6	11.5	3.4	8.0	2.3
	30歳代(n=106)	50.0	34.0	21.7	24.5	27.4	26.4	13.2	4.7	8.5	6.6
	40歳代(n=102)	52.0	34.3	18.6	26.5	19.6	34.3	18.6	10.8	11.8	5.9
	50歳代(n=126)	45.2	30.2	28.6	31.7	24.6	27.8	17.5	11.1	13.5	2.4
	60歳代(n=167)	50.9	33.5	35.3	36.5	23.4	13.2	7.8	24.0	10.8	0.6
	70歳以上(n=163)	42.9	35.0	41.1	30.1	19.0	9.8	10.4	12.3	7.4	0.6

【2】協働の進め方について

1. より良いまちづくりを進めるため重要と思うこと（問15）

問15. より良いまちづくりを進めていくためには、行政がやるべきこととして、次のようなことが考えられますが、特に重要なことはなんだと思いますか。
(○は3つ以内)

より良いまちづくりを進めるため重要と思うことについては、「市民のニーズや地域の課題を把握する」の割合が47.4%と最も高く、ほぼ並んで「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」が47.2%となっている。以下、「市職員が積極的にまちづくり活動に参加する」(32.1%)、「補助金の交付などの財政支援を行う」(26.0%)、「まちづくり活動の担い手を育成する」(25.5%)の順となっている。



地区別では、牛津地区で「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」がやや高いが、大きな地域差は目立たない。

性別では、男性で「市職員が積極的にまちづくり活動に参加する」が女性に比べ高くなっている。

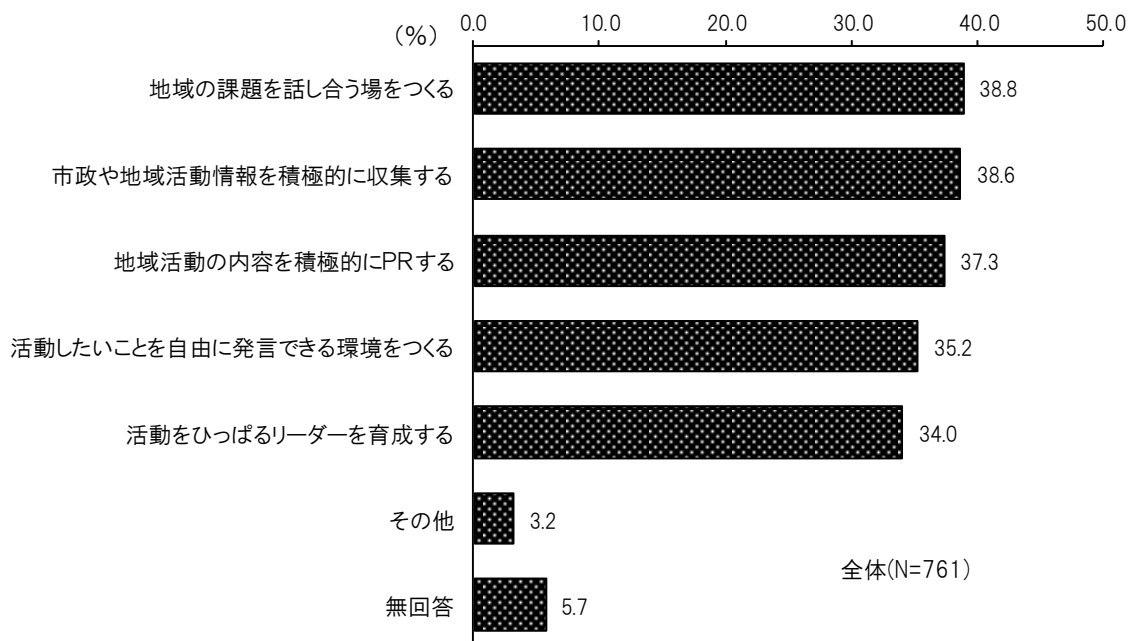
年齢別では、29歳以下で「市民がまちづくり活動に参加するきっかけをつくる」が高く、年齢が上がるほど「まちづくり活動の担い手を育成する」の割合も増える傾向にある。

	市民のニーズや地域の課題を把握する	市民がまちづくり活動に参加する	市職員が積極的にまちづくり活動に参加する	補助金の交付などの財政支援を行う	まちづくり活動の担い手を育成する	市報・ホームページ等を活用した情報発信を行う	市民の力を活かすコーディネート機能充実させる	その他	
全体(N=761)	47.4	47.2	32.1	26.0	25.5	20.6	15.5	2.0	
地区別	小城地区(n=300)	44.7	45.3	34.0	23.3	29.0	21.7	14.3	2.0
	三日月地区(n=191)	48.7	47.1	25.7	32.5	22.5	24.1	17.3	1.6
	牛津地区(n=169)	49.7	55.6	39.6	21.9	19.5	17.2	13.6	2.4
	芦刈地区(n=88)	50.0	38.6	26.1	30.7	29.5	17.0	20.5	1.1
性別	男性(n=343)	48.4	46.6	37.6	26.8	27.1	18.7	16.6	2.9
	女性(n=403)	46.7	48.4	27.5	26.1	23.6	22.8	14.9	1.0
年齢別	29歳以下(n=87)	48.3	58.6	28.7	34.5	17.2	19.5	11.5	2.3
	30歳代(n=106)	51.9	41.5	21.7	31.1	18.9	24.5	15.1	2.8
	40歳代(n=102)	55.9	50.0	31.4	21.6	24.5	16.7	18.6	1.0
	50歳代(n=126)	48.4	40.5	31.0	28.6	26.2	15.9	21.4	2.4
	60歳代(n=167)	48.5	49.1	37.7	21.6	28.1	26.9	15.0	1.2
	70歳以上(n=163)	37.4	47.2	36.2	24.5	30.1	19.0	12.3	1.8

2. より良いまちづくりを進めるため市民ができること（問16）

問16. より良いまちづくりを進めていくためには、市民ができることはどのようなことだと思いますか。（〇は3つ以内）

より良いまちづくりを進めるため市民ができることについては、「地域の課題を話し合う場をつくる」の割合が38.8%と最も高く、ほぼ並んで「市政や地域活動情報を積極的に収集する」（38.6%）、「地域活動の内容を積極的にPRする」（37.3%）が続く。以下、「活動したいことを自由に発言できる環境をつくる」（35.2%）、「活動をひっぱりリーダーを育成する」（34.0%）の順となっている。



地区別では、小城地区や牛津地区で「地域活動の内容を積極的にPRする」がやや高いが、大きな地域差は目立たない。

性別では、男性で「地域の課題を話し合う場をつくる」が女性を上回っている。

年齢別では、年齢が上がるほど「地域の課題を話し合う場をつくる」の割合も増える傾向にある。また、29歳以下では「市政や地域活動情報を積極的に収集する」「活動したいことを自由に発言できる環境をつくる」、40歳代で「活動をひっぱりリーダーを育成する」などがそれぞれ他の年齢層を上回っており、年齢による意識差がみられる。

		地域 をつ くる の 課 題 を 話 し 合 う 場	市 政 に や 地 域 活 動 情 報 を 積 極 的 に 収 集 す る	地 域 活 動 の 内 容 を 積 極 的 に P R す る	活 動 し た い こ と を 自 由 に 発 言 で き る 環 境 を つ く る	活 動 を ひ っ ぱ り リ ー ダ ー を 育 成 す る	そ の 他
全体(N=761)		38.8	38.6	37.3	35.2	34.0	3.2
地区別	小城地区(n=300)	39.3	39.3	42.0	33.7	33.7	2.7
	三日月地区(n=191)	37.2	36.6	29.8	42.4	35.6	2.1
	牛津地区(n=169)	38.5	40.8	42.6	35.5	32.0	4.7
	芦刈地区(n=88)	42.0	37.5	30.7	28.4	35.2	4.5
性別	男性(n=343)	47.2	37.6	36.7	36.2	36.7	3.8
	女性(n=403)	31.8	40.0	38.5	35.5	32.0	2.5
年齢別	29歳以下(n=87)	20.7	44.8	42.5	46.0	25.3	6.9
	30歳代(n=106)	30.2	37.7	34.9	39.6	22.6	2.8
	40歳代(n=102)	34.3	38.2	31.4	39.2	43.1	4.9
	50歳代(n=126)	43.7	34.9	32.5	31.7	35.7	4.0
	60歳代(n=167)	44.3	41.9	43.1	35.9	34.7	0.6
	70歳以上(n=163)	47.2	36.8	38.7	28.2	38.0	2.5